

令和6年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

令和7年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

令和6年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

【目次】

I	令和6年度FD活動の概要	1
	1. 令和6年度の活動概要	1
	2. FD活動に関するウェブサイト運用	2
	3. いつでもどこでもFD	2
	4. Webアンケート形式による授業評価実施	2
	5. ベストクラスの選定・公表	2
	6. アクティブ・ラーニング研究会の実施	3
	7. 学生・教職員FD活動交流会の実施	3
	8. 学外におけるFD関連事業の活用	4
	9. 今後の課題	4
II	第4期中期目標・中期計画及び令和6年度年度計画	6
III	令和6年度の主なFD活動一覧	7

I. 令和6年度FD活動の概要

1. 令和6年度の活動概要

今年度は、本学の主なファカルティ・ディベロップメント（以下FD）活動である、学生・教職員FD活動交流会、学生による授業評価、ベストクラスの選定、授業公開について、以下の点の改善に取り組んだ。

第1に、学生・教職員FD活動交流会で実施するベストクラスの選定については、学部・修士・専門職、さらに現職・ストレート等、様々な学生の参加を得て、各学生間の交流が図られるよう、検討班の編成を行っている。今年度から、大学院において、原則キャンパスへの通学を前提としないフレックスクラスが開設されたことに伴い、同クラスの学生が交流会に参加しやすいよう、対面形式の「昼間の部」に加えて、オンライン形式による「夜間の部」を開催することとした。

第2に、学生による授業評価について、今年度第1回のFD推進委員会において、授業評価の意味の再構成や授業評価の実施方法等の論点整理が行われ、今後、具体的な検討を進めるため、同委員会委員の中から構成員を選出し、ワーキンググループを設置した。

第3に、令和6年度ベストクラス選定科目に係る後期の授業公開について、昨年度の参加者アンケートの結果を踏まえ、対面形式に加え、オンライン同期型形式での参加及びオンデマンド形式での事後視聴を可能とし、教職員の更なる参加促進を図った。

今年度は、FD推進委員会を5回開催した。各回の主な議題は、次のとおりである。

FD推進委員会における主な議題

第1回	令和6年度学生・教職員FD活動交流会について ベストクラス選定科目の授業公開について 令和6年度前期授業評価について 令和5年度後期「学生による授業評価」における自由記述について 学生による授業評価に関する検討について
第2回	学生による授業評価に関するワーキンググループの構成員について
第3回	令和5年度開講授業科目におけるベストクラスの選定について ベストクラス選定科目の授業公開について 令和6年度後期授業評価について 教職大学院実習科目授業評価の実施について
第4回	令和6年度前期「学生による授業評価」における自由記述について 令和7年度学生FDパートナーの選出について 令和6年度FD推進委員会活動報告書の作成について
第5回	「学生・教職員FD活動交流会実施要項」の一部改正について

2. FD活動に関するウェブサイト運用

FD活動に関するウェブサイトは、「FD活動に関するWeb ページ更新の基本方針」を策定した令和3年度以降、継続的に更新を行っている。

具体的には、令和3年度にビジュアルデザインを決定し、令和4年度にリニューアル公開した。さらに令和4年度には「Teaching and Learning Tips」システムの構築を進め、令和5年度よりシステムの利用が可能となった。「Teaching and Learning Tips」とは、既存資源の再利用をねらい、これまでに蓄積してきたFDに関する様々な資料を、データとして検索することを可能にしたシステムである。加えて、令和5年度にはトップページにお知らせ機能を新たに追加した。デザインは既存のビジュアルデザインを踏襲しており、最新情報や重要なお知らせを分かりやすく発信することが可能となった。

また、本ウェブサイトを通して、学生・教職員FD活動交流会で出される数多くの実りある提言や示唆といった学生FDパートナーの声を発信し、ウェブサイトを学生FDパートナーの思いに応える場としていきたい。

引き続き、ウェブサイトを「育てていく」という発想に立ち、教職協働、学生参画のもと取り組みを推進する。

3. いつでもどこでもFD

本学の教員が主となって自律的に行うFD活動を、FD推進委員会が支援する制度として、令和5年度から「いつでもどこでもFD」を開始した。今年度の実績は2件であったが、今後も引き続き支援を行うことで、野火的にFD活動が展開する風土を学内に醸成し、教育の質保証に寄与することを期待する。今後は、より多くの方に制度を利用してもらうため、積極的にアピールし、本制度の認知度を高めていきたい。

4. Web アンケート形式による授業評価実施

今年度も、昨年度に引き続き、Web アンケート形式（授業評価システム）で授業評価を実施した。教職大学院実習科目の授業評価についても、昨年度同様、Web アンケート形式（Microsoft Forms）で実施した。

5. ベストクラスの選定・公表

ベストクラスの選定については、令和5年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、11科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに11科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスを決定した。

また、決定したベストクラスについては、12月開催の教授会で共有するとともに、FD活動に関するウェブサイトに選定理由書を添えて公表した。

6. アクティブ・ラーニング研究会の実施

今年度は、前期に令和5年度ベストクラス選定科目から2科目、後期に令和6年度ベストクラス選定科目から2科目の授業公開を行い、教員間の相互研修の場を設けた。

	開催日	授業担当教員	科目名称・テーマ	参加者数
第1回	2024. 7. 4	岡村 章司	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション（昼間クラス）	2名
第2回	2024. 7. 18	石橋由紀子	コーディネート概論（昼間クラス）	4名
第3回	2024. 12. 17	永田 智子	教養ゼミ（13）	9名
第4回	2025. 2. 17	山本 大貴	異文化理解Ⅰ	6名

7. 学生・教職員FD活動交流会の実施

学生・教職員FD活動交流会の主たる活動である、ベストクラス候補となる授業科目の選定については、令和5年度からの新たな選定過程に基づき、ベストクラス選定の作業時間を80分間確保し、さらに班の中での役割分担を明確にするよう促したことで、十分な議論の時間を確保した上で、円滑な選定作業を行うことができた。

また、「1. 令和6年度の活動概要」に記載のとおり、今年度から、第1回及び第2回の交流会において、フレックスクラス所属学生向けの対応として、オンライン形式による「夜間の部」を開催することとし、ベストクラス選定への参加機会の拡充を図った。

加えて、今年度は特に学部1年次生の公募による学生FDパートナーへの申込みが多数あり、学生の課外活動への関心の高さが伺われ、多くの意欲的な学生とともに活発な活動を行うことができた。

なお、今年度は、学生・教職員FD活動交流会を4回開催した。各回の主な内容は、次のとおりである。

学生・教職員FD活動交流会における主な内容

第1回	任命証交付式 学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて趣旨等の説明 班分け及自己紹介 ベストクラス選定作業（1回目）
第2回	ベストクラス選定作業（2回目） ベストクラス候補について発表
第3回	ベストクラス候補の選定、意見交換（ベストクラスの選定過程等について）
第4回	意見交換（学生による授業評価について、学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について）

8. 学外におけるFD関連事業の活用

本学では、これまで大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校等が実施するFDセミナーなどの案内を本学教職員へ広く周知を行い、参加旅費を補助するなど、他大学等の学外で実施されるFD関連事業への教職員の参加を促すとともに、学外研修の機会を提供してきた。

コロナ禍を経て、他大学等のFD関連事業においても、対面形式に加えてオンライン形式を活用した研修実施が増え、参加者が時間的・空間的制約を受けずに参加が可能となっているが、本学においては、その機会がまだ十分に活用出来ていないように考えられる。(令和6年度 研修数：2件、参加者数：1名)

本学は、今後も他大学等のFD関連事業の幅広い情報の収集と教職員への継続的な発信を行うとともに、その積極的な活用を促すこととする。

9. 今後の課題

ここでは主な課題として、次の3つを取り上げて明記しておきたい。

(1) 「学生による授業評価」の再検討

前述のとおり、FD推進委員会内に「学生による授業評価に関するワーキンググループ(WG)」を設置し、検討を開始した。このWGが主にねらうのは、「授業評価の意味の再構成」である。すなわち、学期末に、受講した授業を振り返ってアンケートに回答するという行為を、学生の学びのプロセスの一つに位置づけ、その行為に、授業改善に資するだけでなく、教育的意味を併せもたせる、というものである。

また本学は、授業評価項目の改訂を定期的に行っているが、前回の改訂は平成29年度であった。令和2年度には、コロナ禍によって授業がオンライン形式で行われたことに伴い、Webアンケート形式に実施方法を変更し、オンライン授業に関する項目と授業形態の設問を追加した。こうした若干の変更はあるものの、基本的に、平成30年度から現在に至るまで、ほぼ同じ評価項目が用いられている。前回の改訂から数年が経過していること、学習観の転換など教学をめぐる学術領域の新たな展開が認められることなども、今回WGが設置された意味である。

ここまで2回のミーティングが行われたが、そこで現れた主な論点をここに整理しておく。①「学習としての評価」(評価それ自体が学びになるような評価)項目を追加するかどうか、②学期の中間で授業評価を実施するかどうか、③回答者に記名を求めるかどうか、④「学生による授業評価」という名称を変更するかどうか、⑤Webアンケート形式に実施方法を変更したことで低下した回答率をいかに向上させるか、⑥LiveCampusU、manaba、授業評価システムという3つのシステムが併存する現状にあるが、これらのシステムを一体化できる可能性はあるか、である。WGを中心に、こうした授業評価の項目内容や実施方法等に関する多様な論点について、来年度も継続して審議していくことになる。

(2) ベストクラスの選定プロセスの見直し

平成27年度に平成26年度開講科目を対象にしたベストクラスの選定が開始され、令和6年度の選定が10回目であった。本学はこの取り組みを、10年にわたって継続してきたことになる。その間、選定の手続きはほとんど変更していない。選定作業が、前年度の授業評価結果(肯定的自由記述等)を参考に学生・教職員FD活動交流会での検討に基づいて行われること、候補とされた授業科目の担当教員と受講者に学

生・教職員FD活動交流会のメンバーがインタビューを行うことなどが、その代表的な手続きである。こうした手続きはここまで概ねうまく機能しているといって差し支えない。ただ、10年の年月を重ねてきたいま、「優れた授業とはどのようなものか。ベストクラスの選定は、この問いを教職員と学生が一緒に考えていくための仕組みであり、本学の教育の質の向上を目指した取組である」というベストクラス選定の目的をいっそう高い水準で実現していくために、選定のプロセスをあらためて見直してみてもよいのかもしれない。そうすることが、ベストクラスの理念を再評価することになるにちがいない。また、現状の手続きが前年度の授業評価結果に基づくものであることから、上記の「(1)『学生による授業評価』の再検討」の結果次第では、必然的に選定プロセスの見直しが求められることになるだろう。

(3) 授業公開（アクティブ・ラーニング研究会）への参加促進

授業公開（アクティブ・ラーニング研究会）への参加について、前記したように令和6年度から、従来の「対面形式に加え、オンライン同期型形式での参加及びオンデマンド形式での事後視聴を可能」（p.1）とする試みを公開授業の一部で取り入れた。それによって参加者数に顕著な改善が認められたわけではないが、参加者からは、「授業内容にもよりますが、今回のようにオンラインもあれば、参加しやすくなるかと思います」（資料編 p.10）という意見が寄せられた。また、今年度も例年同様に、公開したいいずれの授業科目においても、参加した教職員のほとんどが「たいへん参考になった」「参考になった」と回答する事後アンケートの結果が得られている。したがって、授業公開が参加者の授業改善に資する可能性が十分に見込まれることから、来年度以降も、可能な限り、オンライン同期型及びオンデマンド型での公開を継続するなどして、更なる参加促進に繋げていきたい。

ところで、今年度の事後アンケートのなかで、今後の参加促進に向けた建設的なコメントが寄せられた。一例を挙げれば、「公開授業の案内の際に、単にベストクラスの授業を公開しますというだけでなく、昨年度のどのような取組や内容が評価されてベストクラスに選ばれたのか、その経緯について事務局からの説明があると良いと思いました」（資料編 p.10）、あるいは「Zoomで授業の様子を記録しているので、可能なら Library として残して、後日、兵教関係者ならいつでも見られるようにできたらいい」（資料編 p.12）といった提案である。どれも検討に値する提案ばかりであり、来年度の委員会で取り上げて審議していくことにしたい。

加えて、昨年度の「令和5年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書」のなかで、「授業公開の意義や開催の方法等について、あらためて検討し直す時期に来ているといえるのかもしれない」（p.5）と指摘されていた。そこで、アクティブ・ラーニング研究会を、従前の授業公開に加えて、あるいは授業公開と連携しながら、外部講師を招いて実施するなど、ここ数年にはなかった形式で実施する可能性も探っていきたい。

Ⅱ. 第4期中期目標・中期計画及び令和6年度年度計画

F D推進委員会に係る第4期中期目標・中期計画及び令和6年度年度計画は、次のとおりである。

中期目標2教育	(3) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画09	現職教員の学び直しの機会を保障するために、大学院生の多様な学びのニーズや学びのスタイルに対応する学修方法や修学形態を考案し、実施する。
年度計画	全学的なF D活動に取り組み、授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：大学院教務委員会、先端教職課程カリキュラム開発センター、F D推進委員会、教育改善推進室)

中期目標2教育	(5) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程、学士(専門職)課程) ⑨
中期計画12	教育行政トップリーダー、学校管理職、ミドルリーダー、新任教員という教職員の幅広いキャリアステージ及び多様な学び方に対応した教育課程を維持する。現職教員の学び直しの機会を保障するために、大学院生の多様な学びのニーズや学びのスタイルに対応する学修方法や修学形態を考案し、実施する。
年度計画	全学的なF D活動に取り組み、授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：大学院教務委員会、先端教職課程カリキュラム開発センター、F D推進委員会、教育改善推進室)

Ⅲ. 令和6年度の主なFD活動一覧

日 付	事 項
令和 6年 6月17日	FD推進委員会（第1回）
令和 6年 6月26日	学生・教職員FD活動交流会（第1回）【昼間の部】
令和 6年 6月28日	学生・教職員FD活動交流会（第1回）【夜間の部】
令和 6年 7月 3日	学生・教職員FD活動交流会（第2回）【昼間の部】
令和 6年 7月 4日 ～ 7月18日	ベストクラス選定科目の授業公開（前期）
令和 6年 7月 5日	学生・教職員FD活動交流会（第2回）【夜間の部】
令和 6年 7月11日 ～ 7月18日	FD推進委員会（第2回）
令和 6年 7月19日 ～ 9月30日	前期「学生による授業評価」実施
令和 6年11月 6日	学生・教職員FD活動交流会（第3回）
令和 6年11月25日	FD推進委員会（第3回）
令和 6年12月17日 ～令和 7年 2月17日	ベストクラス選定科目の授業公開（後期）
令和 6年12月19日	令和5年度授業科目における「ベストクラス」を公表
令和 6年12月24日 ～令和 7年 3月21日	後期「学生による授業評価」実施
令和 7年 1月17日 ～ 3月 3日	「教職大学院実習科目の授業評価」実施
令和 7年 2月26日	学生・教職員FD活動交流会（第4回）
令和 7年 3月 4日	FD推進委員会（第4回）
令和 7年 3月 5日 ～ 3月14日	FD推進委員会（第5回）